

平成16年度 第2回和光市国際化推進懇話会報告（要旨）

日時 平成16年10月1日（金）午前10時から

会場 402会議室

- 議題
- 1 国際化推進について
 - 2 国際ネットワークについて
 - 3 その他

出席委員 井上良美、渥美玲子、高岸美代子、大澤衛、豊哲男、北村恵美子、坂井好美

欠席委員 田中明、鈴木誠、吉井純行

事務局 企画部長、企画部次長、政策課主幹、同主査、同主事補、国際交流推進員

配付資料 会議次第、(1)回答まとめ、(2)国際化推進計画（平成13年）以降の施策実施状況、
(3)和光市国際化推進計画に基づく施策の実施状況表、

事務局

和光市では現在、行政改革を行っており、限られた財源をどうすれば有効に使えるか、各事業の見直しを行っています。国際化政策もいろんな形で事業をやってきましたが17年度に向け、是非新たな事業を委員の皆様からご意見を出していただき、17年度事業に反映していきたいと考えています。私も皆様の意見を読ませていただいたが、新しい発想でたくさんの良い意見が出されていました。私どもも、国際化政策を重要な施策と考えているので、活発な議論をお願いしたいと思います。

1 国際化推進について

ロングビュー派遣について

井上会長

次第の1、国際化推進について。まず、ロングビュー派遣のあり方について。あらかじめ皆様からご意見をいただいているが、それを踏まえて話し合いをしたいと思います。今現在ロングビューの募集を行っているが・・・。

事務局

その件についてご報告します。ここ3年間中止になっていたが今年度は実施が決定しました。11名派遣予定です。（12名の応募であったが、後に1名キャンセル）

先だって中学生派遣で引率された豊先生（第三中学校校長）がホームページにたくさんの写真や情報を提供してくださったため、市民の方も関心が持てたという効果がありました。ただ人数に関しては最低実施人数が12名で、これは職員を含めた数で決行最小人数でした。また、市民派遣の派遣人数は資料からも明らかですが、残念ながら減少傾向にあります。

井上会長

この機会にロングビューに行かれた豊先生に感想をいただきたいと思います。

豊委員

ホームページは、派遣団長として個人的につくったものです。ホームページをつくった理由は、私自身初めてのロングビューだったから、行く前にホームページで昔の派遣の様子を見て、私たちが記録としてホームページをつくった方がよいと思ったこと、それから1週間日本にいないので、保護者の方も子どもたちがどんな風に過ごしているのか心配等もあると思いました。ノートパソコンで随時、ホームページを更新して子どもたちの様子がわかるようにしました。また、来年度以降の人たちにも参考にしてもらえたらというのが理由でした。

(以後、中学生派遣のスケジュールの説明)

井上会長

毎回、中学生派遣は応募者が多く、選ばれた方が行きます。それに比べ市民の方はだんだん応募者が減っています。みなさんのご意見の中にもいろいろ出されているが、どうしたら魅力のある派遣にできるか討論したいと思います。何か意見はありますか。

事務局

既にいただいたご意見の中にも、「進めるべきである。」「内容を検討するべきである。」「必ずしも派遣を毎年行わなくても良いのではないか。」「もう実施の必要はないのではないか。」と様々なご意見があるが、更に具体的にご意見をいただきたいと思います。

井上会長

実施した方がよいか、それとも実施は難しいのか、その両方の意見があるが、今後実施するとしたら魅力のある派遣にするにはどうしたらよいかを踏まえ実施する、しないの二通りのご意見をいただきたいと思います。

渥美委員

意見をまとめたものを読ませていただき、ただいまのお話を聞かせていただいて、結論としては、なんとか工夫して続けていった方がよいというのが私の意見です。内容的には皆さんのご意見をまとめてもらえればよいと思います。中学生派遣は手作りの旅行という感じがするのに対し、市民派遣の方は観光旅行にロングビューがくっついたという感じがします。中学生の方はロングビューが主体になっており、中身が濃いと思います。それから費用の問題。ロングビューに主体を置いたものにするのと費用をクリアーしていけば、魅力的なものが作れるのではないかと思います。中学生の方は先生方が中心になってプランを決められたのでしょうか。

豊委員

中心になってやっているのは、学校教育課の副主幹です。内容は基本的には毎年同じような内容です。もちろん、全体的な旅行については旅行会社を通して行っています。

井上会長

市民派遣の内容も説明していただきたいです。

事務局

市民派遣も旅行会社は入るが、企画は事務局で行いました。単なる観光旅行にならないように交流を目的とした派遣事業にしています。ただ大きく違うのは、大人はホームステイをせず、ホームビジットを予定している点です。短時間の訪問、現地の工場ノーパック工場の訪問、市庁舎、高齢者施設の見学など手作りで、現地の人々との交流を目的としたものになっています。また和光市のPRなどもする予定です。ホームステイをしない理由は以前トラブルになったことがあり、文化の違いを大人の場合はなかなか埋められないと実感したからです。その分施設の訪問等で交流を充実させています。

井上会長

市民派遣も普通の旅行では得られない、意義のある派遣であると思います。私も第1回に参加してその様に感じています。

高岸委員

質問があります。市民派遣に参加する方の要望を受けるとか、旅行に行く前の勉強会等があるのでしょうか。参加者の希望を受け入れる企画になっているのでしょうか。

事務局

企画の段階では事務局で考えて何通りか用意して募集をかけました。2回の説明会があり、その中で具体的に参加者の希望を伺い、ロングビューのスージー広報官と打ち合わせて詳細を決めています。今回も参加者の希望を取り入れ、ホームビジット、日本語の授業見学、工場見学などを取り入れています。そういった形で市民の方の希望を大いに取り入れた内容にしています。

井上会長

皆さんにいただいたご意見は色々あったが、「この時世に自己負担で、尚かつ20万もする」ということがやはり問題ではないかという意見もいただきました。派遣の内容が20万円の価値があれば行くと思います。事務局も努力していると思いますが、もっと自己負担を減らすためにも何社かのコンペ方式で旅行会社を決定する等を踏まえれば、今後の話し合いも充実するのではないのでしょうか。

事務局

ご意見の通り、金額的なものがネックになっているのは明らかなです。この市民訪問団自体が、一昔前の発想であると思います。行く内容を変えるという問題ではなく、事業そのものを根本的に変えるような発想でないと難しいのではないかというのが、担当している事務局の現状です。先程、次長が申しあげました通り、行革に伴い各事業の見直しをしている中で費用対効果を考えた場合、この事業を続けていく価値があるのか等、根本について懇話会の意見をいただきたいのです。内容については事務局が、一般の旅行では味わえないような訪問にするための努力をしています。今回も旅行会社の決定に当たっては3社の見積もりをとり、JTBに決定しました。

井上会長

漠然と考えるのでは意見が出ないと思います。これまでの経緯等を踏まえた上で考えるべきです。事務局から、派遣の内容ではなく根本的な派遣事業自体のあり方についての意見が欲しいということですが、これに対して何か意見はありますか。

高岸委員

これはほとんど予算の問題です。20万円も出すのであれば、観光旅行でもっと有名なところに行きたいと誰でも思うと思います。市でこのような事業をやるのであれば、参加者が広報活動を行うべきであると思います。私もしばらく市民海外派遣については知りませんでした。市民まつりのアンケート結果を見ても、姉妹都市のことを知らない人が半数以上いました。市民への周知ができていないと思います。費用について市で負担を多くし、その代わりに1年間姉妹都市の広報活動を行う等の義務づけをするのはどうでしょうか。今のままでは中途半端な気がします。

井上会長

その他の意見はありますか。

豊委員

事務局の説明では、市民派遣の根本を検討していただきたいということであったが、私としては、今後続けるにはどうすればいいのかという意味で捉えて意見を書きました。それは、費用の削減と内容の検討であると思います。今でさえ、費用対効果を考えるといかがなものか、という意見が出ているということでもあります。現在の行政改革の中からは、これ以上予算が増えることは期待できないと思います。今後どうやって続けていくのが良いかというのが我々への諮問であったと思いました。

井上会長

私は事務局が派遣事業についてどのような評価をしているのかを伺いたいと思います。

事務局

先程、費用のことが話に出たが、20万円というのは参加希望の市民が負担する金額であり、市が負担するものとしては現地での交流会費やバスの移動費用、渡航を引率する職員の旅費です。政策課としてよりも、参加者の負担が大きいのが問題で多くの市民に興味を持って参加してもらえていないです。その同額の費用で、例えば市民大使のような人を何人か厳選して、個人負担を少なくするというのも一つの案であると思います。全体的な費用を削減する等の考えを事務局が持っているわけではありません。同じ費用を使って、もっと良い方向にできる事業を実施したいと思っていますのです。

井上会長

市民派遣に対する市の評価はどのようなのでしょうか。

事務局

率直に言うと、帰国報告会は実施するが、その時他の市民が参加して盛り上がり、それを機

会に来年行ってみようか、というようなことになっていないです。行った方が市民まつりでPRするということもなく、個人としてはこの事業を評価しているとは思いますが、それを行政に生かすというような段階に至っていないです。

豊委員

もし市民の負担を減らし、充実したものにするには、予算を増やす必要があると思うが、それは難しいのでしょうか。

事務局

懇話会として、そういう方向でまとめれば事務局として予算を増やす方向に持っていくことはできます。

豊委員

先ほどの話では、派遣そのものをどうするかという話がいきなり出たので、それでは何のためにこういう改善策をつくったのかという思いが我々にはあります。

渥美委員

中学生も成人も和光市民ではないか、と思います。市民全体のことを考えたら中学生に関しては全額費用負担のために予算をとっているが、市民レベルでの交流に関してはそれほど予算をとっていないです。しかし、懇話会で出てきた意見というのは、市民レベルでの交流をもっと盛んにして盛り上げていこうというものでありました。市民の要望として予算を増やすということは可能ではないのでしょうか。人数が減ってきたからと、あまり消極的にならないでほしいと思います。

井上会長

市の評価はどのようなのでしょうか。費用の問題のみではなく、どのような評価がされているかについてお答えいただきたいと思います。

事務局

市民海外派遣に対する市の評価としては、ここ3年間テロやSARS等のために3年間中止となりました。市民まつりのアンケートでは「行ってみたい」「関心がある」等の意見を多くいただいたため、今回の派遣事業にはかなり力を入れていました。広報活動に関してもかなり力を入れました。しかしながら応募者が少なく、市が主催する訪問事業は市民のニーズに合っていないのではないかという実感があります。近隣市町村についても市が負担して訪問事業を行っているところはありません。最近の傾向としては、個人負担でもいいから行きたいという市民が集まり、自分達で計画して訪問しているという例は聞いています。

今の時代に市が市民を募って海外派遣をする事業に対しては再検討しなければならない状況にあるというのが、市の評価です。この事業の再検討が必要であるとする理由としては、姉妹都市交流が一方的なところにあります。平成14年にはロングビュー前市長やシティー・マネジャーが和光市を訪れたが、市民レベルでの訪問はありません。このようなことから、毎年の実施は検討する必要があるという評価をしています。

井上会長

市がこの事業に対してどのような位置づけをしているかは重要です。本当に意義があればもう少し色々な形で努力をして続けるべきであると思います。私個人としては大変意義のあることであると思っています。よって、これを意義のあるものにするために皆さんと検討する余地はあると思います。いますぐに派遣を中止するか続けるべきかの結論は出せないと思います。

事務局

現在は、特別な事情がない限り毎年実施をしてきました。さまざまなPRをしてきたが、本年度の実施における人数はぎりぎり集まった程度であります。事務局としては人数が集まらない状況を見て、毎年続けていくのは難しいという認識をしています。皆さんにいただいた意見の中にも、毎年続けなくても良いという意見がありました。

井上会長

今、事務局から説明がありましたが、毎年続けなくても良いという意見に対してはどう思いますか。

大澤委員

私たちもいろいろな交流をしており、日本からアメリカに行きたがる人は多いが、アメリカから日本に来たがる人は少ない現実があります。そのような点からも最近ではオーストラリアや他の国との交流が盛んになってきています。交流というものはある程度同じレベルでなければ長続きしません。例えば、こちらから訪問するのであれば向こうの方も多少は日本語を覚える気があるというような、双方向の交流でなければ難しいと思います。

また、毎年訪問というのはとても日本的な考え方です。何かの記念の年や節目の年に訪問するというようなスタンスの付き合いが良いと思います。

豊委員

予算のことを考えてしまいます。一年おきに訪問することが決まっていれば予算もとれるが……。と余計な心配をしてしまいます。確かに、2～3年に一回の訪問でも良いと思うが、そのようにした場合にも、個人負担の費用の問題と募集やPRの問題が残っています。皆さんが提示した改善策を見る限り、残るのはこの二つの問題です。例えば、2年に一回の実施になった場合には個人負担が15万円になる等の見通しが立つのであればそれは一つの方法であると思います。

高岸委員

市民海外派遣ということで成人が参加するとなると、仕事を数日休む等と払うリスクが大きすぎます。2年か3年に一度、自己負担が無しに近い費用で実施するのであれば中学生派遣のように申し込みが殺到するのではないのでしょうか。また、今までの交流が発信型でなかった、向こうが来てみたくなるような和光市のPRが足りなかったのではないかと思います。

渥美委員

実際に和光市とロングビュー市の日頃のコミュニケーションはどうなっているのでしょうか。

AET（英語指導助手）は来ているが、市民レベルでの交流はどうなっているのでしょうか。
井上会長の和光国際交流会ではいろいろな交流があるのですか。

井上会長

手紙のやり取り等はないです。手紙を出しても返事が返ってこなかったりで、なかなか交流が長続きしません。

大澤委員

基本的に向こうから連絡が来ないです。感覚の違いなのかも知れませんが。

豊委員

私は日本に帰ってきてから6軒のホームステイ先にメールを出しましたが、返信があったのは2件でした。

渥美委員

井上会長の和光国際交流会で日本語を習っているのはどこ出身の外国人が多いのですか？

井上会長

アジア系、中国人などが多いです。理研の研究者の中で、最近多い国籍はどこですか？

坂井委員

やはり、アジア系。中国の方も多いです。

事務局（国際推進員）

平成14年にスージー広報官たちが和光市に来たときに、以前ロングビューへ行った中学生を、スージーさんたちとの昼食に誘ったが、来たのは一人でした。感覚の違いもあるが、どちらもどっちな部分があります。

大澤委員

ロータリークラブとしては、昨年度にロングビューを訪れたり、交流はあるのですが。

豊委員

派遣が、職員を入れて12名という数字の根拠は何でしょうか？

事務局

まず、市の事業としての訪問団であるからできるだけ多くの市民の方に参加していただきかったということが念頭にあります。こちらとしては引率職員を2名と決めていたので、訪問中にすべての市民に対して配慮ができる20人までを考えていました。いろいろな手段を使って勧誘をしたが集まったのが10名であったというのが事実です。（仕事の都合でその後一人キャンセルになってしまったが）

豊委員

意味的には多い方が良いと思うが、逆にもっと絞り込んで、少数精鋭ということにして経費的に安くなるのであれば、多くの市民にする必要はないのではないだろうか。少なければ少ないほど充実する方法はたくさんあると思います。

事務局

旅行人数が少なくなってしまうと、旅行費用が上がってしまいます。20万8000円という金額は旅行会社にかなり競争して、努力いただいた金額です。費用を20万円程度と考えた場合に最低12人という数字が出ました。

井上会長

事務局の努力はよく分かるが、やはりそれを我々にきちんと示していただかないときちんと理解できません。

事務局

今回委員の皆様に出していただいた意見を参考にして来年度以降の事業についての見直しを行っていきたく思います。時間の都合もあるので議題を先に進めていただきたいのですが。

井上会長

それでは意見の2“内なる国際化”の推進について話を進めていきます。意見を述べていただきたいのですが。

豊委員

お手紙をいただき、内なる国際化について意見を述べるということであったの曖昧な解釈で、意見を書いたが、正直なところ内なる国際化が何であるかをきちんと理解できていません。内なる国際化の推進について具体的にどのようなことを話し合ってもらいたいのかをもう一度説明していただきたいのですが。

事務局

事務局の説明が不足していたことをお詫び申し上げます。ハードとソフトで国際化推進を考えると、ハードというのは市が行う事業やサービスについての国際化を指す。また、ソフトというのは各個人の意識レベルでの国際化についての推進をどのように進めていったらよいかということをお話し合っていたきたいです。

市の事業としてワンナイトステイという事業があるが、これは日本語国際センターに研修で来ている各国の日本語教師の方を斡旋しています。和光市では市民に対してホストファミリーを募集し、登録してもらいます。日程等が合えばお世話していただき、交流を深めていただいています。この事業は各個人レベルでの国際化を推進することに役立てていただいていると思います。たとえば、ホストファミリーの募集を中学校・高校でやってはどうかという意見もいただいています。意識的な国際化を広げていくにはどうすればいいのかということをお聞きいただき、ご意見をいただきたいです。

井上会長

個人レベルでの意識をどう変えるかということが、内なる国際化推進ということですか？ワンナイトステイは登録制なのですか？

事務局

登録制です。県が日本語国際センターから依頼を受けて、県が市町村に依頼している事業です。和光市での登録家庭は現在5件です。昨年度は9世帯であったが、和光市から転出された

ために受け入れ家庭数が減少しました。また、この事業は和光市内に在住の外国人を対象にしていません。そのため地域の外国人との交流はできていません。皆さんからいただいた意見の中には、外国人との交流の場がないという指摘がありました。改善策としてなにか良いアイデアはないでしょうか。

井上会長

地域の外国人との交流も踏まえ、内なる国際化の推進としてどのようなことができるか、市民レベルでどのようなことができるかについて、ご意見をいただきたいです。坂井委員は理研の研究員の外国人と接する機会が多いと思うが、日常生活のいろいろなことも含めて市民レベルでできることに関するヒント等をいただけたらと思います。

坂井委員

難しい問題です。研究所には、外国人も日本人もいるが理解し合うことはなかなか難しいです。しかし、接する機会を多くすることが一番良い方法であると思います。実際、外国人であると分かれると接しようとしなない人も多いです。しかし、道を教えたなどの、何かをきっかけに意識的に近くに感じることができるのではないのでしょうか。お互いに、少しでも身近に感じられるような機会を持つことができる場所があれば良いです。公民館等で、料理教室や外国語教室等、いろいろな教室が催されていたりするが、そのような情報が十分に届いていないのではないのでしょうか。ちょっとした情報を提供していくことで知識を少しずつ蓄えていくようにすればよいと思います。協力できる外国人は理研にいると思うから、一緒に何かをやる交流の場を企画してもらえれば、ぜひ協力させたいと思います。

高岸委員

総合学習の中で何かできると思います。ホームステイを推進することは個人のレベルでできることであると思います。本校も受け入れ先が決まらなくて困っていたため、入学式の時に「お母さん、ホームステイは家庭内留学ですよ」と言いました。すると、今まで10家庭位だったのが30家庭に増え、非常に協力的になりました。このように英語に対する関心や興味を持っている人は多いです。市がホームステイを仲介・斡旋するののも一つの方法であると思います。

井上会長

私も市民レベルでの活動をしているが、やはりもっと活動の場が欲しいという意見をたくさん聞きます。例えば公民館では1ヶ月に予約できるコマが決まっているため、場所の確保に苦労します。大きなイベントをするよりも、小さな事一つひとつの積み重ねが大切であると思います。他に何か意見はありますか。

渥美委員

現在、和光市で実施しているワンナイトステイは県からの依頼で行っているそうだが、和光市独自のワンナイトステイを実施してはどうでしょうか。

事務局

事務局としても、そのことについて考えています。和光市内にいらっしゃる外国人の方を対

象に、和光市内の家庭でホームステイを市の事業として実施に向けて検討したいと思います。もし、そのような場合に理研の外国人研究員で週末等に参加してもらえる外国人はいるでしょうか。

坂井委員

聞いてみないと分からないが、興味を持つ人はいると思います。例えば、夏に大学が休みの間に理研に2・3ヶ月の間来る若い人たちがいます。そのような人たちは日本に興味を持っている方も多く、さまざまな場所を訪れたりする人も多いです。そのプログラムにワンナイトステイを組み込むことは可能かも知れません。

事務局

いろいろな国から沢山の外国人が和光にいることは聞いているが、その人たちが留学生なのか、研究者なのか、家族持ちなのか、人数はどれくらいいるのか分かりません。理研にはいろいろな施設があるが、交流の場はたくさんあるのでしょうか。

坂井委員

集会所や喫茶店はあります。和光に関しては、研究者が160人程住んでいます。正確な数は申し上げられないが、三分の一から半分くらいは家族連れで、構内宿舎に住んでいます。宿舎以外でも10数人おられます。理研は教育機関ではないから、「留学で来ている」学生はいないが、学位を取る研究の一環として一時的に理研の研修生として来るといった人も一部います。そのため、年齢も国籍もまちまちです。

事務局

家族で来ていて、1年から2年と長い期間日本に滞在する外国人の方々は、日本に興味があるのではないのでしょうか。

坂井委員

それは個人によると思います。いろんな交流をしている人もいます。

事務局

そうすると、やはり「場所」の問題でしょうか。

井上会長

問題は場所と人集めです。

事務局

時間の都合もあるので「今後実施した方がよいと思われる施策」も含めて協議していただきたいです。次第2の国際ネットワークについては、懇話会で出た意見を国際ネットワークにも提示していきたいと思うが、それでよしいか伺いたいです。

異議なし

事務局

先程、渥美委員から市独自でワンナイトステイ事業をしてはどうかという意見をいただきましたが、他の意見も伺いたいのですが。

井上会長

その他の意見は何かありますか。

高岸委員

和光市にいる外国人の表を持ってきました。これは、文化祭で発表したものであるが、なかなか好評でした。これを市民まつり等の展示で役立てていただきたいのですが。

渥美委員

これを広報に載せてはどうでしょうか。また、広報にそれぞれのお国紹介のコーナーを設けてはどうでしょうか。

高岸委員

このように表にまとめて初めてこのようにたくさんのいろんな国からの外国人がいることが分かりました。市民に何らかの形で少しずつ知らしめていくことが大切であると思います。

井上会長

懇話会もあり、ネットワークも確立したのだから、この会議の中から発信していきたいと思っています。

渥美委員

それだけ家族連れの研究員が多いと、お子さんも沢山いると思います。和光市の公立の小学校や中学校で授業を受けているのでしょうか。

坂井委員

現在、構内宿舎に住んでいる家族で、学区は第四小学校・第三中学校になるが、四小に通っている児童は7名います。日本語に問題のない児童は2・3人いるが、それ以外の児童については、週に3回教育委員会から日本語の先生を派遣していただいています。去年までは3人いたが現在、中学生はいないです。

豊委員

平成15年の調査で、和光市内で小中学校合わせて日本語の指導が必要であると思われる外国人児童生徒数は、6校24名でした。そのうち日本語指導を受けている児童生徒は5校18名です。1年程経っているからこの人数は変わっていると思うが、このような問題を抱えています。

井上会長

見かけが日本人で、名前も日本名、話すこともできるが……。という児童が、勉強についていけなくて一番困っているのではないのでしょうか。また、いじめの問題に発展していくケースもあります。

交流の場を設けての外国人のお国紹介は、費用もかからず、みんなで楽しめるものであると思います。他に意見はありませんか。

豊委員

今の意見と関連するが、せっかく立ち上げた国際ネットワークを充実させることによって、

内なる国際化・国際交流の問題に関しても充実すると思います。その充実の一つのイベントとして、市民まつりでの我々のブースの更なる充実が求められると思います。イベントの参加者として外国人の方にたくさん来てもらえれば、その他の外国人も立ち寄りやすくなると思います。現在は日本人が対象になっているが、和光に住む外国人に「あのブースへ行くと、いろんな人に会える。情報交換もできる。日本のこともいろいろ分かる。」と思ってもらえるようなブースの充実を実現したいと思います。

渥美委員

インターナショナルデーのようなものを一日設けて、イベントを催すのはどうでしょうか。

豊委員

いきなりイベントをやるのは難しいと思ったから、まずは市民まつりの充実を考えました。

井上会長

昨年、志木市と国際交流団体とのイベントに参加しました。そのイベントは事業として市の予算がとれていると伺いました。3カ国くらいの国の方が民族衣装を着て、衣装の紹介をしたり、踊りを披露していました。飲食にもお金はかかっていません。

企画の段階でも市民がアイデアを出していました。市の職員と市民で役割分担ができていたと思います。そのためには、場所も必要であるし和光市全体に周知することが必要です。

高岸委員

日本語のスピーチ大会などがあればいいと思います。日本語を習ったり、教えたりする目的が日本語検定だけでなく、他にもあれば良いと思います。

事務局

貴重なご意見をいただきました。誠に申し訳ないが、時間の関係で今日の会議はこれで閉会にさせていただきたいと思います。今後も皆様のご協力をさせていただきたいと思います。

井上会長

今日はこれで閉会とします。

事務局

もう一度年度内に懇話会を開催し、本日の協議を更に深めていただきたいと思います。その協議の結果を市長に報告していただきたいと思います。次回の会議について、日程調整がまだできていないため追って皆様にご連絡させていただきます。ネットワーク会議も開催し、今後のネットワークのあり方と、市民まつりの参加の仕方について話し合ってくださいと思います。

井上会長

だいたいいつ頃を予定しているのですか。

事務局

時期については、年が明けてから年度末にかけてを考えています。前もって皆様にご都合を伺う予定です。